

# ミケの七輪

こいのぼる



## ミケの七輪

---

「いらっしやい、鈴ちゃん」

隣のじいちゃんは、七輪に火をおこして夕食のしたくをしていた。

「じいちゃん、近頃ミケみないね」

いつも足元で魚をおねだりするのらねこミケ。今日も姿をみせようとしな。

「ミケも歳じゃ、あいさつせずってしまったんじやろう」

「ミケは、ここがいやになったの？」

「鈴ちゃん、それは違うよ。ねこは天国に行くときはひっそりと旅立つんじや」

七輪を眺める。しばらくすると、じいちゃんが魚をのせた。

「鈴にかわって！」

「ん？ 急にどうしたんじや」

「ミケにとどけるの！」

うちわを受け取り、七輪の前にすわる。

「鈴ちゃん……」

「私達を忘れないように」

煙が夕暮れの空にあがっていく。

「においはとどくよね」